

## 矢西 正明 氏 学位審査結果の要旨

主査：蔦 幸治

副査：中邨 智之、塩島 一郎

小型腎細胞癌に対する腎部分切除は腎動脈阻血処置を要するが、阻血による残腎の虚血性変化は将来的な残腎機能に影響を与えることが明らかとなってきた。阻血の影響の客観的な評価が必要であり、今回検討された尿中 L 型脂肪酸結合蛋白は腎部分切除術における虚血性腎障害に対して、1-2 時間目にピークを向かえ、速やかに術前値まで低下することが明らかとなった。また尿中 L 型脂肪酸結合蛋白濃度は術後 6 ヶ月の腎シンチの値とも相関が認められ腎阻血の早期診断マーカーとして有用と考えられた。以上より、学位に値する研究と考える。